

五島をつなぐ ～支庁の窓～ No.12

今回は、支庁が行っている港湾工事のうち、神津島で行っている工事について紹介します。

支庁では、神津島港において、島民の生活と産業を支えるため係留施設（岸壁等）・水域施設（泊地等）・外郭施設（防波堤等）の整備及び既存施設の機能拡充等により、定期船の就航率向上、乗降と荷役作業の安全性・効率性の向上に努めています。

その一つとして、護岸の改良のため消波（しょうは）ブロックの増設を行いました。これは消波ブロックを海中に据付することにより波の威力を弱め、防波堤を波から守るためのものです。今年度の工事では、20トン型と40トン型の消波ブロックを合わせて100個以上増設しました。ところで、みなさんにとって「消波ブロック」は聞きなれない言葉だと思いますが、「テトラポッド」という名前なら聞いたことがあるのでは。「テトラポッド」は何種類もある「消波ブロック」の中の一つで、企業の商品名です。

また、神津島港では防波堤の建設工事も行っています。防波堤を延伸することにより、港内の静穏性を高め、船の安全を確保し、接岸を容易にするための工事です。今回は鋼製型枠と呼ばれる大きな鉄の箱を海中に沈め、その中にコンクリートを流し込む工法を用いて防波堤を造っています。

防波堤や岸壁の製作方法には、この他にも内地でコンクリート製の大きな箱を製作し海に浮かべ、船で牽引して島まで運び、海中に沈めて防波堤等を造るケーソン工法やコンクリートのブロックを重ねて造るブロック積式工法等があります。今年7月に大島と新島でケーソン工法の現場見学会が開かれましたので、覚えていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれません。

今後とも、各島において工事が行われ、トラックや作業船が出入りするなどご迷惑をお掛けすると思いますが、ご理解とご協力をお願いします。

